

平成三十一年度

小論文

(90分)

短期大学部 キャリア開発学科

解答はすべて解答用紙に記入すること

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、この問題用紙を開かないこと。
- 二、問題用紙は、表紙を含めて三ページである。
- 三、解答用紙は、一枚である。解答は縦書きにすること。
- 四、受験番号・氏名は、監督者の指示に従って記入すること。
- 五、問題用紙の余白等は適宜使用してよい。

問題

短期大学部 キャリア開発学科

次の文章をよく読んで、以下の設問に答えなさい。

ワーク・ライフ・バランス。日本でもすっかり定着した言葉です。国際女性会議* WAW!でも「ワーク・ライフ・バランス」は主要テーマの一つに位置づけられています。今までは家事・育児に専念していた女性たちが「社会進出」をするにあたり、どうやって「家庭」と「仕事」を両立させるか? というのが主な論点でした。

日本では長いこと、「ワーク・ライフ・バランス」女性の問題」とされてきました。ところがここに来て、「働き方改革」や第3回目となる「WAW!2016」では、男性の「家庭進出」を促すためにはどうすればよいのか? という議論が熱くカワサレルようになりました。

そして「WAW!2017」では、「無償ケア労働の男女間の分配」をテーマとしたハイレベルパネルが企画され、私はモデレーターを務めました。

男性が家事や育児を「手伝う」ではなくて、共に「二ナウ」^①にはどうすればよいのか? というのが新たな論点になったのです。

既婚者だけではなく、独身の男性が親の介護の問題に直面するケースも出てきました。

そこで、男性も女性も、どのように「ワーク」と「ライフ」を両立させるのか、マネジメントするのか。ワーク・ライフ・バランスの問題は、女性だけの問題ではなく、今や、超少子高齢化が進む日本の大きな政策課題になっています。

(中略)

それから時を経た2015年12月。

* UNDPは「Work for Human Development」(人間開発のための「WORK」という報告書を発表しました。この報告書は、この20年間に急速に進展したグローバル化と技術革新(イノベーション)が、いかに世界中の職業の種類や仕事のありよう、人々の働き方を変えたか、これからも変えていくかをつぶさにレポートしています。そして、当時の「WORK」のガイネン^②を一新させています。

この報告書のタイトルは、日本では「人間開発のための仕事」と訳されました。ちょっと残念に思いました。この報告書が伝えようとしているメッセージが薄まってしまふ気がしたからです。

「仕事」というと、通常は「お金を稼ぐための生業」^③を思い浮かべますよね?

「あなたは仕事している?」と聞かれたとき、何らかの職業に就いていたり、アルバイトをしていたりと、お金や報酬に結びつくことをしていれば、「はい、仕事しています」と答えると思います。

つまり、**私たちが持っているイメージは、仕事⇨報酬のある労働**です。

ところが、この報告書が打ち出しているメイン・メッセージの一つは、そういう「常識」自体を問い直すという**こと**なのです。

WORKを単に「職業」や「収入源」といった「経済活動」として限定的に**トラエル**^④のではなく、「人間が幸せに生きていくために必要な活動」として、幅広くとらえようというのです。

そして、WORKを4つに分類しています。

①有償労働 (Paid Work) : 報酬のある仕事・職業

②無償ケア労働 (Unpaid Care Work) : 主に家庭内で行う、家事、育児、介護、看護などの人の「お世話⇨ケア」に関する労働

③ボランティア活動 (Volunteer Work) : PTAや町内会などの地域活動や社会奉仕・社会貢献活動など、報酬のない労働

④創造的な活動 (Creative Work) : 音楽やアートなど、自分の創造力を使って、何かを生み出したり、表現したりする活動

この報告書が提唱しているのは、「一人ひとりが生きやすく、暮らしやすい社会を創り、持続させるには、この4つのタイプのWORKが必要だ」ということです。

国が経済的に安定し、人々が「食べていく」ためには、①「有償労働」が必要不可欠です。でも、社会が持続的にまわっていくためにはそれだけでは不十分です。

毎日、出勤して働けるのは、ちゃんと家で食事をして、お風呂に浸かり、布団にくるまってゆっくり身体を休め、洗濯された衣服を身につけられるからです。

つまり、料理や掃除や洗濯といった、家事労働があつてのことです。

それに、子どもの世話も、単に自分の子どもを育てるという意味合いだけではなく、次世代の働き手やノウゼイ者^④を産み、育てている、つまり、国の人的資本の育成という経済的な意味もあるのです。こうした、家庭内で行われている②「無償ケア労働」も立派なWORKです

そして、③「ボランティア活動」です。日本各地に「子ども食堂」という取り組みが広がっていることをご存知ですか？

日本の子どもの6人に1人が相対的貧困状態にあると言われ、社会問題化しています。

母子家庭の子どもに限って言えば、2人に1人の割合です。お母さんは子どもたちを食べさせるために、ダブルワーク、トリプルワークで働いていますが、なかなか家で温かい食事を作れない、子どもたちと一緒に食べられないという悩みがあります。

そういった家庭の子どもたちの居場所を作り、温かい食事を提供しようというのが「子ども食堂」の趣旨です。私も首都圏や関西や東北の子ども食堂の視察に行きましたが、運営の中心となっているのは地域のボランティアの人たちです。

子育てが一段落した主婦、退職したけどまだ元気一杯のアクティブ・シニア、福祉を学んでいる学生たち。こうした人たちが、子どもたちの居場所を作っています。

さらに、最近の病院では、室内楽コンサートや美しい色彩のアート作品の展示が積極的に行われています。音楽やアートに代表される、④「創造的な活動」は、患者さんや家族など周囲にいる人たちの心を癒し、生きる希望や力を与えてくれるからです。

こうして考えてみると、確かに、この報告書が言う通り、私たちが「生きていく」ためには①の「仕事」「職業」「収入源」が不可欠ではありますが、実は、②③④の労働や活動が私たちの生活や人生に大きな意味を持ち、日々の生活や社会全体の豊かさを下支えする大切なWORKだということがわかるでしょう。

(大崎麻子『エンパワーメント 働くミレニアル女子が身につけたい力』経済界 一部改変)

註

WAW (World Assembly for Women の略称) 国際女性会議。「女性が輝く社会」を国内外で実現するため、2014年から開催している国際会議。(外務省ホームページより)

UNDP (United Nations Development Programme の略称) 国際開発計画。貧困の根絶や不平等の是正、持続可能な開発を促進する国連の主要な開発支援機関。(国際連合広報センターホームページより)

問一 文章中の㉗㉘㉙のカタカナ部分を漢字と送り仮名のひらがなで答えなさい。

問二 この文章を読んで、あなたの自由な考えを、七〇〇字以上八〇〇字以内(句読点も一字に数える)にまとめて述べなさい。また、その考えを端的に表現する題を記入しなさい。